

HPAI 発生農場における低水分鶏ふんの発酵消毒を目的とした適切な水分調整方法の検討：畜産研究所 宮野友里、米澤瑤乃

【目的】処理対象物である鶏ふんの水分が低すぎると発酵温度が十分に上がらず、経営再開の妨げとなる恐れがあるため、発酵消毒を行う上での適切な水分率を検討。【方法】乾燥鶏ふんとオガクズを重量比 30% 混合後、水分率が 40%、45%、55%となるよう加水し、無加水区（水分 10%以下）と併せて小型堆肥化装置（10L）により発酵状況を比較。試験 1 は夏季条件、試験 2 は冬季条件で実施。【結果と考察】（試験 1）加水を行った各試験区間に発酵温度のピーク差は認められず、60℃以上のピークに到達した時間は加水量が多いほど早かった。（試験 2）堆肥化開始後数日経過しても発酵温度の上昇が認められず、切り返し 1 回目に発酵助材として米ぬかを全区に 150g 添加。その後温度が上昇し、発酵温度のピークは水分が高いほど高く、到達時間も早かった。発酵消毒を早期に完了させるには夏季、冬季ともに 55%が最も効果的であり、冬季は米ぬかの添加が効果的。